

多文化サポート概論

授業科目名	多文化サポート概論	単位数 2 単位
英語標記	Introduction to Multicultural Supporting Foreigners in Japan	
授業コード	360215	
受講人数	50 人程度	
担当教員	林田 雅至	
対象	全研究科大学院生、3 年次以上の全学部生	
開講時間等	第 2 学期＝水曜 4 限 (10 月 6 日～)	
開講場所	豊中キャンパス：大学教育実践センター（後日決定）	
キーワード	マイノリティー・コミュニティー、多言語・多文化化政策、Language Barrier Free、ランゲージ・コミュニケーションデザイン、外国語運用能力検定試験	
授業の目的	1. わが国、とりわけ関西広域圏・大阪府における外国籍住民(ミクロナリティー・コミュニティー)の現状について把握し、理解を深める。 2. さまざまな分野について、多言語・多文化化政策はどのように可能かを検証し、具体的なストラテジーによる解決策を模索する。 3. 「言葉の壁」を取り除く Language Barrier Free Strategy について具体例を示しながら、そのスキルをどのようにして身に付けるかを考える。 4. Language Communication Design の重要性について考察し、客観的な言語能力を保証する検定試験制度に言及する。	
講義内容	半年間を通じて以下の項目で授業を進める予定である。 1. 概要説明 2. 大阪府下の外国籍住民の現状 3. Language Barrier Free とは何か？ 4. Language Barrier Free Strategy 5. Language Barrier Free Project I 6. Language Barrier Free Project II 7. 「外国人サポーター1、000 人育成プロジェクト」I 8. 「外国人サポーター1、000 人育成プロジェクト」II 9. 欧州における外国語運用能力の認証制度 10. 「異文化のこどもたち」外国人児童生徒学校支援 I 11. 「異文化のこどもたち」外国人児童生徒学校支援 II 12. 「異文化のこどもたち」外国人児童生徒学校支援 III 13. 多言語化する保健医療 I 14. 多言語化する保健医療 II 15. まとめ	
教科書	特に指定しないが、必読文献はその都度配布する。	
参考書	毎回の授業の中で指摘する。	
成績評価	出席率(3 分の 2 以上)とレポート。	

地域貢献事業

2007 年度まで大阪外国語大学・地域連携室を背景に様々な地域貢献事業を実施してきた。経済のグローバル化にともなって日本で生活する外国人の数も増加の一途をたどっている。地域社会の国際化の進展の中でもっとも大きな課題は「ことばの壁」である。「内なる国際化」の実現に向けて旧外大は、幅広く通訳者・翻訳者の育成につとめる社会的責務があり、関西圏の自治体や NPO をパートナーとして、語学力のある人材の登録・派遣スキームを整備していくことで、他の大学にはない地域連携・貢献型体制を模索してきた。

2004-05 年度 Language Barrier Free Project

2004-05 年度 Language Barrier Free Project：IT を活用した多様な会議場実験。阪神・淡路大震災 10 周年追悼国連防災世界会議(2005.1.18-22)、第 7 回アジア・太平洋地域エイズ神戸国際会議(2005.7.1-5)、第 117 回 IATA(Internacional Air Transport Association、国際航空運送協会)発着調整会議(2005.11.10-15)を舞台に社会的会議場実験を行なった。

「外国人サポーター1,000 人育成プロジェクト」

「外国人サポーター1,000 人育成プロジェクト」:05 年度から 3 年間、大阪府、OFIX(大阪府国際交流財団)の委託研究事業、Visit Japan の一環で「外国人サポーター1、000 人育成プロジェクト」として観光案内、緊急対応(保健医療・災害対応等)、コミュニティー(教育・地域の文化等)など 3 分野にわたる研修・認証制度確立のための協働作業に取り組み、2007 年度後半大に継承された事業として阪大にとっても人材派遣の枠組みを構築できる絶好の機会と捉えた。そしてこの事業を継的に学内開講したものがグローバルで昨年度から始まった「グローバル共生社会論」で、本授業科目と姉妹関係にあたると言える。

言語のためのヨーロッパ共通基準枠

さらに外国語運用能力を客観的に保証する認証制度は社会的要請の高い急務の課題であり、この「外国人サポーター1,000 人育成プロジェクト」を契機として認証手法の開発に本格的に取りかかった。プロジェクトにおける 3 段階評価基準について「言語のためのヨーロッパ共通基準枠(Common European Framework of Reference for Languages)」に設定された評価基準を参考とした。

公衆衛生カフェ改め「洪庵塾」カフェの継続的な社会実験

2008 年度社会実験、中之島ラボカフェ「公衆衛生」カフェを 3 回にわたって開催し、「内なる国際化」の問題にも取り組んだ。受講生にはロジステックも含めてカフェ参加を呼びかけ、社会活動実践のウォーミングアップの意味合いも兼ねた。昨年から「洪庵塾カフェ」として公衆衛生分野(薬物・喫煙問題など)のみならず、観光産業分野も含み幅広く展開した。1 月には大阪国際会議場で雇用創出の起爆剤としての観光交流産業のシンポジウムを開催し、今後全体最適化を目指す Systematic Planning という Communication Design を実践すべく欧州古城宿泊施設を鑑とする「町屋旅館業」による地域活性化などにも取り組み、「洪庵塾カフェ」(CSR,2010-2011)を石見銀山でも開催予定。

マイノリティー・サポートに取り組もう

今後、地域貢献事業の組織的取り組みによって市民に対する本学の知的財産の開放・社会への還元、ひろく教育サービスの充実がはかられることを目指したい。受講生のみなさんには是非その担い手として外国語運用能力を発揮するいかにかわからず、マイノリティー・サポートに取り組んでいただきたい。昨年度後期は日本語識字教室「よみかき茶屋」(大阪市)とのタイアップで増加の一途を辿る外国籍住民の日本語学習者数への支援の在り方を幅広く検討した。今後も継続する。